

貯蔵温度と吸水温度がイネの籾と玄米の発芽に及ぼす影響

上埜喜八*・三吉一光（佐賀大学・秋田県立大学）

開花 45 日後に収穫した Pachchai-perumal（インド型）とハチョウチ（日本型）の発芽に及ぼす貯蔵温度と吸水温度の影響について検討した。Pachchai-perumal の籾と玄米の発芽率は 10 日間の貯蔵中に上昇した。ハチョウチの場合、籾は貯蔵の前後ともほぼすべてが発芽し、玄米の発芽率は貯蔵してもほとんど変化しなかった。籾を貯蔵後、玄米にして吸水させた場合、Pachchai-perumal は 30℃貯蔵によって発芽率が上昇したが、20℃貯蔵の場合、発芽率の上昇はほとんど認められなかった。これに対し、ハチョウチでは発芽率がやや低下した。従来、イネの休眠は穎果の乾燥により打破されることが報告されてきた。しかし、乾燥貯蔵により発芽率がほとんど変化しない場合や低下する場合が認められた。